

いのち
生命の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS

2020年秋

143

JAFS-KAFS
THIS WELL IS DONATED BY
KUNIMOTO SHOKAI CO., LTD
OSAKA, JAPAN 2019

特集

新型コロナウイルス禍の中で②



since 1979

公益社団法人アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society



● 主な目次 ●

「巻頭言」外務省の経験を会長職に生かす 02

特集＝新型コロナ禍の中で②

貧しい人々、がけっ縁／感染疑われ隔離施設を体験／高い自殺率がさらに上昇／学びの場にも深刻な影／オンライン授業「不公平」／減らされた通院 ほか——各国からの便り 04～14

アジアからの留学生に生活資金支援 14・15

「ガンジス川の風に吹かれて

インド仏跡巡礼の旅」⑤ 16～19

「井戸ができた村」 20～23

ネパール2年目の揚水プロジェクト 24

JAFSの10年後を描くビジョン 25

熊本の豪雨被災地へ支援 26

「JAFSプラザ」＝国内の活動

アルミの国際価格に一喜一憂一空缶を

売ってネパールに学校／新入会員歓迎 27

新入会員紹介・領収報告 28・29

「新・the 社会貢献」 30

「環境コラム」 31

アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2020年3月現在、井戸建設（累計2113基）や植林（累計257万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <https://jafs.or.jp>

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

外務省の経験を会長職に生かす



篠原 勝弘

アジア協会アジア友の会
会長

11年前に外務省を退官した際、FORVAL社の大久保会長より、まだ結成したばかりのCIESFというNGO団体への協力を要請され、喜んで参加することにしました。爾来9年間、副理事長兼カンボジア代表として、主として現地カンボジアで教育支援、人材育成事業のお手伝いをして参りましたが、2年前にカンボジア代表の肩書は残したまま相談役に退きました。CIESFの活動は教育支援、人材育成事業を中心に5つのプロジェクトを実施してきましたが、多くの事業は10年を経過し、一部の事業はカンボジア政府へ移管する時期にきています。いずれの事業も、事業活動に参加していた専門家の献身的な活動のおかげで、現地政府、特に教育大臣から高い評価を得ることができました。

現在、歴史のあるアジア協会アジア友の会（JAFS）の活動をお手伝いさせていたことに、戸惑いもありますが、これまでの経験が少しでもお役に立てればと思っています。JAFSは、国際的非営利団体として世界の貧困地域の人々に対する支援・救済活動、自立のための開発支援、人材育成事業等を幅広く行っており、いずれも評価の高い事業ですが、私が最も注目して参りましたのが、アジアの18カ国の人々との人的なネットワークの構築事業でございます。カンボジアではJAFSの海外メンバーとして外務副大臣をはじめ多くの政府幹部が会員として名を連ね、カンボジアでの支援事業に積極的に参加して参りました。

現在、コロナウイルスが世界に蔓延し、相互の協力活動は困難な状況にありますが、各国で活躍している海外メンバーは、コロナ終息後はJAFSを通じて日本とそれぞれの国との共同プロジェクトを進めて欲しいと望んでいるのではないのでしょうか。アジア各国の中には自前の起業活動が十分進んでいないところがあります。日本はITやデジタル化の分野でやや後れを取っており、各国が必要としているノウハウを山ほど持っています。JAFSは、各国

が日本に期待していることを正しく日本企業に伝え、海外での事業展開に志のある日本企業がれば海外のメンバーに橋渡しの役割果たせるのではないのでしょうか。中国は共産主義超大国として経済力を梃子に政治的な影響力を増しつつあり、被援助国のネットワークの中には国家主義的な強引さに反発を感じている国もあります。米中の角逐がますます激しくなる中で日本の役割が問われています。日本が米国の同盟国としての立場は堅持しつつ、途上国の国造りに資する真摯に取り組み従来姿勢を推進していく、更に政府の経済協力政策の中に、JAFSのようにアジア諸国の官民との強力な人的ネットワークを有する非営利団体を活用していただくのも一案かと思われます。

● プロフィール ●

しのはら・かつひろ 1944年東京生まれ。67年外務省入省、97年民間援助支援室長、2001年在カンボジア大使館公使参事官、04年在チエンマイ総領事、07年在カンボジア特命全權大使、09年外務省退官、JAFS入会、公益財団法人CIESF副理事長兼カンボジア代表。12年JAFS理事就任。19年CIESF副理事長退任、相談役兼カンボジア代表。20年JAFS会長。

JAFS会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

貧しい人々がけつ縁

特集 新型コロナ禍の中で②

新型コロナウイルス感染症はまだ終息の兆しが見えませんが、世界中で困難な状況が続く。アジア各国のJAFS提携団体からは、深刻な現況報告と支援の要請が続々と寄せられています。フィリピン、バングラデシュ、ネパール、インド、スリランカの5カ国から届いた便りを詳しく紹介します。

JAFSはこの間の4～6月に第1期の緊急支援募金を呼びかけ、計414人から総額610万9901円をご寄付いただきました。海外各国への支援と、日本にきている留学生の生活支援に使わせていただいています。新型コロナ禍が克服される日まで、今後も息長く支援を続けて参ります。

(翻訳：編集スタッフ・大本和子、JAFSスタッフ・坂口優)

都市ロックダウンで

わずかな収入も失う

●フィリピン 8月7日

デニス・バティIIアジア社会科学院 (ASII) 副学長

全国で数多くの予防策が実施されているにもかかわらず、新型コロナウイルスは驚くべき速さで拡散し、特にマ

ニラ市は感染例が多いため、ウイルスの震源地と見なされています。

市の中心部にあるスラムには、経済的に貧しい家族がたくさんいます。

「家」と呼ぶ老朽化した建物に住む彼らは、親戚も含めて同居人数が多いので、パンデミックの恐ろしい影響を経

験することになります。

この地区には、JAFS奨学金プログラムに参加している子どもたちがいます。彼らは、家でソーシャル・ディスタンスをとる練習をすることができません。マスクを着け、消毒用アルコールや石鹸で手を洗って清潔を保ち、感染を予防するという政府の指導に従うことも難しいと感じています。食料や水など生存の基本的ニーズを満たすお金さえないのに、政府の指導をどうしたら遵守できるのでしょうか。

スラムの世帯主は、日雇い労働者、三輪車の運転手、オートバイや乗合自動車(ジープニー)の運転手、大工、建設労働者、そのほか仕事と言えないようなちよっとした手伝いや物乞いなどで一家を養っています。

政府のマニラ首都圏全体に対するコミュニティ隔離強化宣言により、全てが停止しました。公共交通機関は止

まり、建設工事は中止されました。ショッピングモールやレストラン、その他サービス業は閉鎖されました。学校も休校しなければなりませんでした。

宣言はスラムの家族に重大な影響を及ぼしました。彼らの仕事の稼ぎは多くの場合、その日食べるだけの分、代わりの収入源もなくなったので、生存は確実に脅かされています。

スラムのほとんどの子どもたちは、親が仕事を失ったり、基本的ニーズに使うお金がないのを見たりするのが苦しいと言っています。

JAFSの支援を受けている少なくとも10人の生徒が、パンデミックについての経験を話し合い共有しました。ロックダウンのため父親が職を失ったJAFS奨学生の経験は、ほとんどのJAFS奨学生家族を始め、貧困ライオンを下回って生活する多くの家族に共通します。

「ジープニー運転が父の職業で家族の主な収入源です。ロックダウンのために父が政府の命令に従って運転をやめ、私たちは大きな経済的苦しみを味わいました」(ケイト・アシュレ)

「政府が数kgの米と限られた数の缶詰などの支援物資を提供したのは事実です。ただし、支援は一時的で、その品物だけでは数日間しかもちませんでした。しかし、封鎖は数日でなく数カ月続きました」(マリー・ジェーン)

アジアの新型コロナ感染症 累計感染者数と累計死者数

WHO(世界保健機関)など調べ

	感染者数	死者数
インド		
5月5日時点	46,433	1,568
6月19日時点	381,091	12,604
9月15日時点	4,926,914	80,808
インドネシア		
5月5日時点	12,071	872
6月19日時点	42,762	2,339
9月15日時点	221,523	8,841
カンボジア		
5月5日時点	122	0
6月19日時点	129	0
9月15日時点	275	0
シンガポール		
5月5日時点	19,410	18
6月19日時点	41,473	26
9月15日時点	57,454	27
タイ		
5月5日時点	2,988	54
6月19日時点	3,141	58
9月15日時点	3,475	58
ネパール		
5月5日時点	82	0
6月19日時点	7,848	22
9月15日時点	55,329	360
バングラデシュ		
5月5日時点	10,143	182
6月19日時点	102,292	1,343
9月15日時点	339,332	4,759
フィリピン		
5月5日時点	9,684	637
6月19日時点	27,799	1,116
9月15日時点	265,888	4,630
マレーシア		
5月5日時点	6,383	106
6月19日時点	8,529	121
9月15日時点	9,946	128

コロナ禍前のマニラ市のスラムの子どもたち。狭い家屋や路上にまで人があふれる不衛生な環境は、コロナ感染の恐れが絶えないフィリピン





廃材で組み立てた「家」はとても狭く、ソーシャルディスタンスがとれない（コロナ禍前）＝フィリピン、マニラ市

「父は他の収入源を探しました。しかし、家にいるようにという政府の助言により、生計を立てる方法を見つけれませんでした。そもそも収入がない状態で、どうやって生き残れるのか疑問です」（フェビイ）

「どうやって生きるかという問題にとりあえず対応するため、日々の食べる量を制限する必要がありました。私の母は私たちの日常のニーズを満たすために友人や親戚からお金を借りました。収入がないので、毎日次の食事を心配しています。このような状況でどれだけ長く生きられるかと、頭がいっぱいになりました」（ロデル）

JAFS奨学生たちは、自分の状態について皆同じような気持ちを持っています。彼らは、パンデミックの中で生きていけるのか心配しています。ウイルスがいかに危険であるか、また自分や家族、地域にどのように影響を与えるか、十分に認識しています。

「住んでいる場所が不健康なので、ウイルス感染をとっても心配しています。適切に換気されていない小さな老朽化した建物で、新鮮な空気を呼吸するのに十分なスペースがないような混雑した地域なのです。さらに、健

うやく子どもたちにご飯を食べさせることができる」と涙ながらに喜んでいました。また、病気の夫を看病する女

京セラ労組の協力で 困窮世帯に支援物資

●フィリピン 7月20日

エロイサ・クナナンⅡKALIPⅠKALIPⅠ財団では京セラ労働組合とJAFSの協力を得て、ヌエバエシハ州の新型コロナウイルスによる生活困窮100世帯に支援物資を配りました。事前に地域のコミュニティワーカーと連携して、助けを必要としている家庭の生活を調べ、米、缶詰など日持ちする食物を約半月分、消毒剤など衛生用品、マスク、栄養剤をセットにして配ることにしました。

外出制限中の物資調達は困難を伴いましたが、必要としている人々にできるだけ早く届けられるよう、地域で協力体制を組み、支援物資はボランティアの手で袋詰めしました。

配布時にも感染しないよう様々な工夫をしました。KALIPⅠ事務所の外に専用会場を設け、各家庭の代表1人が、マスク・消毒をしてお互いの間隔を保ちながら、物資を受け取りました。村人が外出できるのは週1日と決まっていたため、6、7月にかけて配りました。遠方で来られない人には、ボランティアが運搬を協力しました。

子どもを7人抱えるお母さんは「よ



感染疑われ隔離施設を体験

●フィリピン 7月24日

ガレリア・リンⅡAFSⅠUMD代表

3月12日、私は病気で入院していた息子を見舞うためマニラを訪れました。その時パンデミックが宣言され、15日にはマニラ全体が地域隔離強化まではロックダウン下に置かれました。移動は許されず、交通機関も止まり、ソルソゴンの自宅に帰れなくなりました。やり残した仕事があり、新学期の準備も必要で、気がかりでたまりませんでした。

すでに職を失っていた末娘がバンを借り、5月2日に何人かの若者と一緒に、14時間かけて故郷に帰り着きました。ところが、マニラから戻って来たため、制服を着て道路交通を管理している人から、隔離施設となっている高校に行くように言われました。

苦しい隔離生活でも、笑顔を忘れない入所者ら。前列左から2人目が筆者Ⅱ5月16日、フィリピン、ソルソゴン州

係やきずなが強くなりました」（クリスタル）

「公共交通機関のストップで、車から排ガスが減り、空気がきれいになっています。この状況は、環境を回復させるのに役立ちます」（ジョネル）

一方、ある子どもは感染を防ぐために、自分、家および地域全体の清潔さを守るようになったと述べました。

「水、アルコール、フェイスマスク、フェイスシールドなどの基本的なものは費用がかかり買えないので、自分自身、家、そして地域を清潔に保つ方法を学び、ウイルスから身を守るようになりました」（ギルバート）

子どもながらに彼らは、この状況を冷静にとらえ、自分自身を守ることで市民として貢献しようとしています。

「私たちがウイルスから身を守ることで政府を助けることができます。政府の助言に従って家に留まり、私たち自身と私たちの環境、特に家とその周辺を清潔に保ちます。定期的に手を洗い、マスクを着用し、政府が定めたすべての予防策を講ずることで、自分たちを清潔で健康に保ちます。これは政府がウイルスと戦うのを助けるためのシンプルな貢献です」（ケー・ジャステイーン）

私たちが入れられたのは学校の建物だったので十分な水や電気があり、幸運でした。何の設備もないところもあったのです。3食支給され、たいい肉もついていました。使い捨ての食器、食料の袋、衛生用品が地方政府から支給されました。1日2度の検温が指示されました。

施設では神の守りと家族や友人、教会のメンバーの祈りのおかげで、徐々に生活しやすくなりました。時間を有効に使って掃除をし、植木に水をやり、神に祈り、神の言葉を思っ過ごしました。若者たちはスマホの操作で忙しくしていました。

入所者の1人の陽性が判明し、落ち込みとストレスの多い時がやって来ました。陽性者と同じ場所で過ごした私たちは、さらに2週間の隔離が追加されたのです。その陽性者の家族は差別され、地域の人たちは陽性者の家に近づくの恐れるようになりました。

陽性者はすでに州立病院に入院し、観察下にありましたが、近隣の別の町は、陽性者の町から人が来るのを禁じました。隔離施設で働く人たちは感染しているとみなされ、家族から帰ってくることを禁じられていました。

思うに、こういうことは知識不足と恐怖から起こることです。ついに州全体が隔離下に置かれ、皆がステイホームとなり、行動が監視されました。28日間の隔離後、全員の陰性が判明

し、ついに解放されました。一緒にマニラから帰った陽性者は、快復し陰性となりました。隣人や地域の人たちは、私たちと交わることをためらっていましたが、「時間が癒す」のことわ

「生活できない：」自殺率さらに上昇

●ネパール 7月28日

レジマ・タパ・マガールⅡAFSネパール

ネパールは自殺率の高い国ですが、新型コロナウイルスのため、ロックダウンが施行された約3カ月、さらに自殺が増えました。精神面に問題があったり、不安や心理的問題を患っている人々が移動を制限され、カウンセリングや医療サポートを受けられなくなったからです。さらに、失業して銀行などにローンや利息が払えなくなり、家族に快適な生活を提供できないという罪悪感が、人々に自殺を考えさせるもう一つの大きな要因となっているのです。

警察の公式記録によると、3月24日から7月5日までの100日間に1105人が自殺しています。最も多いのは第5州の242件。186件の第1州、162件の第3州、152件の第2州が続きます。過半数が首吊りで、服毒や焼身、飛び降り、武器使用を含む他の方法が続きます。

ざ通り、時が経つと地域の人と交わることができるようになりました。

私は職場である学校に戻り、学校教育の中でいわゆる（コロナ後の）「新しい日常」と呼ばれるものにチャレンジ

実例を挙げます。

◇ロルパ出身の男性（31） 6月24日に出嫁ぎ先のドバイから帰国し、自宅待機を強いられ、一人で親戚の家に引きこもっている間に自殺。

◇アッサム地方の病院用務員（25）仕事を失って7月8日、病院の前でガソリンを浴び焼身自殺。32人が解雇された病院の従業員の一部でした。

◇インドラワティ10地区（旧ボテシパ

ジしようと考えています。フィリピンでは多くの海外からの帰国者が隔離され、陽性者が出ています。私たちの生活は決してもう以前とは同じにはいかないのです。



支援活動で作成したコロナ感染防止啓発ポスター
＝8月11日、ネパール、シンドウパルチヨーク郡

新型コロナウイルスのパンデミックにより、わが国は別の健康問題でも危機的な状況に陥っています。それは多くの死、孤独、トラウマから生まれる恐怖です。データによれば、うつや不安はすでに国の問題となっています。新型コロナウイルスの感染拡大が続けば、ネパールでの自殺者は、まだまだ増えていくのではないかと心配しています。

さらに雨季の大雨により、土砂災害と洪水が国中で頻発しており、ウイリスとの戦いに加えて土砂災害への対応が、政府にとって難しいものとなっています。コロナ禍における避難所の過密状態についても、感染リスクが懸念されています。

ールバスで学校に来させ、授業をすることを決めました。

学校は生徒や親と定期的に連絡を取り合っています。8月末までに、政府は学校再開を許可するでしょう。まず学校としては、校舎、スクールバス、校庭の清掃をします。生徒たちに感染について教え、保護者会を開いて親から意見を聞き、安心してもらいます。長期に休校したため、政府は教育内容を30%削減しました。

10年生の卒業認定試験は無事に終了しました。政府は、オンラインで授業を受けられない貧しい生徒に、テレビ放送での授業を実施し、生徒が感染した場合無料で治療を受けることができるようにしたので、生徒たちは不安なく試験に参加しました。今、私たちは試験結果を待っています。今日までに陽性者は一人もいません。

毎日少数の教師のみが学校に通っています。政府が、全員が行くことを許可していないためです。

私たちは皆安全で健康です。8月、新年度の入学登録が始まりましたが、親たちは農業従事者で、コロナ禍で生活苦に直面しています。授業料など諸費用を支払うように言うのが難しい状況にあります。一方、教育省のルールで、学校が閉鎖されていても教師の給料は支払う必要があります。しかし、授業料が入りにくい今は、給料の支払いはとても困難です。

学びの場にも深刻な影

全土で全校が長期閉鎖さらに親の生活苦

●インド 8月5日

ナンディニー・クンパールⅡ日印友好学園コスモニケタン理事長

カルナータカ州ビジャプールにあるコスモニケタンは、パンデミックにより4カ月以上閉鎖されています。生徒だけでなく教師の健康への懸念もあったからです。現在、教職員と生徒、その家族とも健康です。

インド全土で大学までの全学校が閉鎖されており、全家庭が学校、親が教師という状況です。家では遊びと勉強の時間の区別がはっきりせず、子どもたちは規則的な生活ができなくなるので、問題となっています。子どもたちは、外に出られず、何を勉強すればよいかわからず退屈しています。学校のような学習環境を家庭で作っていくことは無理で、子どもたちの学習に大

8月15日はインド独立記念日。例年、全校生徒や教職員で盛大なイベントを行うが、今年は一部の参加者のみで祝ったⅡインド、コスモニケタン学園

きな影響を与えています。

全国的ロックダウンは新型コロナウイルスの感染防止に良いことですが、経済だけでなく教育にも影響を及ぼします。動画アプリを使って授業をしている学校もありますが、そのようなオンライン授業ができるのは一部の学校や大学に限られています。農村部の学校や家庭には、その設備がありません。

コスモニケタンの生徒の親は、農業に従事しています。スマートフォンやパソコンを持っていないし、持ってもネットワーク環境が悪いので、オンライン教育はできません。政府は新学期に向けて基礎教育の方法を考え、テレビの全国放送で朝と夕方、8、9、10年生に授業を放映しています。生徒全員がテレビを持っているわけではないので、そういう子には本で勉強することを教師は勧めています。

教育省は、生徒20人を1グループとして、教師が家を訪問して授業をするように促しました。コスモニケタンの生徒は様々な村から来ておりそれが難しいため、人数を限定して生徒にスク

115家族にマスクや衛生用品

●インド 7月31日

ブラモッド・ソラットIIマハラシュ
トラ州HDS I

アムラビ地区の、パンデミックで苦しんでいる貧しい家族を対象に、5月第4週に支援物資を配布しました。ロックダウンが延長されて誰もが困っています、中でも日銭を稼ぐ労働者たちは特に支援が必要です。この支援活動で計115家族が、現金と、マスクを含む衛生用品を受け取り、助けられました。

この活動は、地区に割り当てられたボランティアたちが担いました。支援を受けたのは、食料や生活用品に事欠くような人々ですから、とても感謝していました。配る際は、ソーシヤルデイスタンスをとり、フェイスシールドを着けました。ロックダウン下で通常は外出できないので、この活動について政府から許可を得て行いました。支援を受けた人々の声をお伝えします。

「アムラビ地区に住むダニエル・パルゴモル、48歳です。母親と暮らしています。車の運転手として日給で働いていますが、ロックダウンのため仕事に出られません。収入がなくなったの

で食事に事欠き、必需品を買うこともできず、大変苦しんでいます。しかしこの危機の中、支援してくれた食料で、ロックダウンが終わるまでの日々を過ごすことができます」

「アカルプールのダリヤバード村に住むサンドヤ・カノルカールです。夫を亡くして2人の子どもと暮らしています。農場で日雇いの仕事をしていいます。ロックダウンで52日前から仕事

森の少数民族の暮らし直撃

●インド 8月15日

カシナート・デオガデIIマハラシュ
トラ州RUDYA

インドで新型コロナウイルスの影響を最も受けているのはマハラシュトラ州で、感染者数は増えています。インド政府とマハラシュトラ州政府は3月22日からロックダウンを始め、現在まで段階的に規制が行われています。

あらゆる企業や工場、店、建設業が閉鎖され、多くの人々が仕事や収入を失いました。労働者だけでなく、事業主や店主も経済危機に陥り、生活に深刻な影響を受けています。

なく、収入はありません。日に2回の食事をとることはとても困難でした。とても感謝しています。この食料で、仕事がなくとも数日間家族が食べることができます」

「アンジユム・サマドです。未亡人で、アチャルプールのダリヤバード村で一人暮らしをしています。農場で日雇い仕事をしています、ロックダウンで仕事がなく、収入もなくなりました。生きていくのもとても困難だったのですが、必需品の入った袋を手渡し

ガッチロリ県は、少数民族が暮らす未発展地域です。彼らは、県面積の76%を占める深い森に頼って生活を営んでいます。3、6月は、マハウの花と種、テンドウの葉を集めて売り、雨季に必要な食料費や、農地の耕作費を稼ぎます。しかしロックダウンにより、この収入がなくなり、日々の食事さえままならなくなりました。

RUDYAは貧しい人のために同県で28年間活動しています。今回はJAFSに支援を要請し、250個もの食料キットと2130^{ドル}の支援活動費を与えてもらいました。緊急性の高い未亡人、身体障害者、高齢者に対象を絞つ

オンライン授業「不公平」／減らされた通院

●スリランカ 7月29日

ラビンドラ・カンダゲIIサルボダヤ
(AFSスリランカ)

生の声を2つ紹介します。

◇

私はサレリ。16歳の11年生、貧しい家庭の娘です。5年生のとき、父が亡くなりました。母は3人の子を養うため、茶摘みなどの仕事を掛け持ちして頑張ってきました。教育を受けられなかった母は、子どもたちは教育を受けて成功するようにと常に励ましてきました。私はいつも母のことを気の毒に思い、感謝しています。

新型コロナウイルスにより、生活は以前より惨めになりました。母はよその家での家事手伝いの仕事ができなくなりました。銀行口座には1^{ドル}も残っていません。換金できる貴金属や宝石は持っていません。食事は1日2食で、栄養バランスも取れていません。たいてい母は何も食べず水でお腹を満たします。誰からの支援もなく悲惨な生活です。今は中学校卒業認定試験の準備をしています。補習クラスに参加してないので、学校の先生の親切なサポートだけが頼りです。過去数カ月間に、学校はオンライン授業を始めましたが、



生活困窮者へ支援物資を配る = 3月24日、スリランカ、アヌラーダプラ地区

るよう、政府に学校再開を頑張つてほしいと思います。

◇

私はモハメド・ラミース。60歳で5人の子がおり、娘2人が既婚で1人が未婚、2人の息子はまだ学生です。

私は高コレステロールと糖尿病を患っており、昨年から腎臓の病気に苦しんでいます。週1回、コロナ総合病院で人工透析を受けていましたが、新型コロナウイルスにより、2週に1回にする

よう病院から求められました。コロナ総合病院では、人工透析などの高額治療が無料ですが、減った回数分の透析は私立病院で有料で受けることになり、コロナが原因で私たちに安定した収入はないので、支払いが困難です。体力が付き、より良い生活ができることを望んでいます。ですが、お金がないので無力感に襲われています。誰かが私たちのような貧しい人

て食料キットを配りました。ロックダウン下で村に行くには制限がありましたが、行政長から許可を得ました。RUDYAスタッフ、村の若者や病院職員、私の家族が配布を手伝いました。

配布の際は、互いのソーシヤルデイスタンス(約1m)に気をつけ、受け取る人々には、常に輪になって距離を保つようお願いしました。手を消毒するよう呼びかけ、フェイスマスクも配りました。感染防止の方法を村人に説明して啓発した後、食料キットを配りました。村人たちは、通常の仕事が始まるまで数日間の十分な食料を得ることができました。感謝の気持ち一杯で涙目の人もいました。全てJAFSを通して支援くださった方々のおかげです。

その後のガッチロリ県の新型コロナウイルスの状況です。8月15日時点で、陽性者は累計816人、今現在の陽性者は160人ですが、幸い死亡率は非常に低くなっています。県全域が新型コロナウイルスの影響を受けていますが、農村部での蔓延が心配です。農村地域がひとたび影響を受けると、消毒や手洗い、ソーシヤルデイスタンスへの意識が低い村では、感染拡大を防ぐことは非常に困難です。

今から1カ月は、農村の人々は稲作仕事で忙しくしますが、それが終わると11月の収穫まで、非常に厳しい暮らしになるでしょう。

を支援してくれたら大きな祝福です。通院するための移動許可を得るのも大変でした。村長に相談して地区事務局で許可証を取得するのに1週間かかり、それから警察署を訪問し、病院に行くための旅行許可証を取得する必要があります。ありました。医療を受けるためだけに多くの困難に直面しました。

新型コロナウイルスは社会生活のあらゆる面に脅威を与えています。自営業者と日雇い労働者は、家族を養う収入を得られず、生き残るのが困難です。お金がなくて盗みを働く人々もあり、特に都市のスラムで問題となっています。

多くの人は宗教的価値観と倫理に従って貧しい人を助けるようになっており、より良い明日への兆候が見えます。しかし若者が将来を絶望して精神的に不安定になり、ストレスを抱えています。すぐに対処しなければ、新たな社会問題になる可能性があります。

SNSでは、様々な宗教団体が心ない人から言葉の暴力を受けています。若者を中心に偽ニュースやヘイトスピーチ、噂も常時流されました。メディアは、陽性者が出ると報道倫理を忘れて個人情報を書真や動画とともに公開し、陽性者を社会から疎外しました。

この状況では、体調に問題があっても隠す傾向が出てきます。すぐに対処しないと、憎しみが広がり、国内に分断が起こり、問題化してしまいます。

当団体の若いメンバーは、国内各地

で感染予防啓発や困窮者支援の活動をしています。ラトナプラ地区の青少年リーダーは、SNSを通じて、屋内での健康維持や外出先で距離をあけて並ぶことの啓発と、家庭菜園に関する情報発信を始めました。またカラガハウエワ村の特に恵まれない家族に支援物資を配りました。ガレンビドヌウエワ村では村人からマスク不足の声を受け、青少年自ら縫って配布しました。アスラーダプラ地区では24人の腎臓病患者と26人の特に貧しい家庭に野菜を、キリノツチ地区では食事のとれない人々に3日間お弁当を、ジャフナからチャンカネ地区の恵まれない60家族に支援物資を、配布しました。コロナボでも貧しい人々に支援物資を配布し、バッテリーカロー、ジャフナ、トリンコマリーなどでもコロナ禍による困窮者への支援活動を展開しています。

今までにない状況の中で何をすべきか、より良い明日に向かって力を合わせ、今できることからしています。コロナ下でも可能な仕事についてトレーニングしています。社会のつながり作りや平和構築についてのオンライン対話も計画し、起業アイデアの開発などを進めます。農村部では農業経営の研修をします。困難な状況ではありませんが、この取り組みが、長年にわたる民族・宗教・地域などによる隔たりを乗り越える機会になると考えています。

「学び遊んだ友と学校が恋しい」

●バングラデシュ7月20日
アムブローブ・ゴメスⅡBDP
(Basic Development Patners)

バングラデシュはとても小さな国で人口は非常に多いです。新型コロナのパンデミックとロックダウンで経済は支障をきたしました。

多くの人々は繊維工場で働いています。既製服は国の主な輸出品目であり、2番目は労働力ですが、2つとも新型コロナに影響を受けています。衣料品工場は徐々に再開しています



「学校に行けないのが悲しい」と話すモスキタムくん（右）＝バングラデシュ、カルシリスカオニア郡

が、海外からの注文が滞り、従業員の削減を始めました。女性を中心に約100万人が失業あるいは転職しました。日用品や食料がなく、非常に困難な時を過ごしています。

は不十分なので、BDPとして支援を考えたのですが予算が足りず、JAFSとアジアキリスト教育基金（ACEF）から財政支援をしてもらいました。生徒と家族5000人の一人ひとりにマスク2枚と石鹸3個を配り、生徒も親もとても満足しています。生徒と親たちは皆、健康です。

BDPは、貧しい子どもたちのために無料の学校を運営しています。しかし現在、新型コロナによる休校で教育は止まっています。親たちの仕事は、日雇い労働者、人力車の車夫、小さな店主、小規模農業などで、子どもを学校に通わせる経済的余裕はありませんでした

が、その収入も途絶えています。家族全員がさらに困難な状況にあり、なすすべがありません。政府の食料支援で

今は勉強は家で、学校で渡されたスケジュール通りにしています。父は市場で魚を売っていたけど、お客さんが減っていると断っていました。私たちの食べ物を得ることにとても苦労しています。去年の夏休みは母の実家に帰省して、いとことマンガーやジャックフルーツをたくさん採って食べ、川で泳いだけど、今年はできません。伯父さんが数日前にコロナに感染しました。とても苦しんでいます。病院の先生には「彼は良くならないかもしれない」と言われました。BDP小学校は、私たちにコロナウイルスから身を守るためのキット（マスクとハンド

コロナ禍に対するアジア各国の動向（在外公館情報、ウィキペディア、朝日新聞などによる）		
年月	アジア各地での主な動き	日本国内での主な動き
2019年12月	◆中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎患者発生	
2020年1月	◆武漢市都市封鎖開始、交通機関ストップ（23日、4月8日に解除）、25日からの春節による全国的な移動で感染拡大、全国の映画館などが閉鎖◆タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、シンガポール、カンボジア、インド、ネパールなどで感染者確認	◆厚労省、中国・武漢から帰国の男性から感染を確認と発表（16日）◆指定感染症に指定（28日）◆政府の対策本部発足（30日）
2月	◆台湾、中国人の入境を禁止（6日）、ベトナムも中国からの入国を拒否へ◆中国、湖北省全域に封鎖宣言（16日）◆韓国、国家危機警報を最高レベルに格上げ、小中学校などの始業を延期（23日）◆フィリピン、学校等での大人数が集まる行事の中止を決定。（5日）◆スリランカで感染者確認（24日）	◆豪華客船ダイヤモンド・プリンセス内で感染判明（1日）、横浜港で感染者の医療機関搬送や検疫、除染。感染者723人、死者13人◆国内で初の死者（13日）◆マスク不足、全国で深刻化◆トイレットペーパーやティッシュペーパーの買い占め全国に広がる
3月	◆インドネシア、ブルネイ、ミャンマー、ラオスなどで感染確認◆ベトナムで開催予定のASEAN首脳会議延期◆WHO事務局長「パンデミックと言える」と発表（11日）◆フィリピンでルソン島地域のロックダウン開始（17日）、ビザ発給停止（22日）、全土で移動制限（28日）◆インド、外国人の入国差し止め（12日）、全土封鎖を発表、官公庁、企業、学校などの閉鎖や外出制限実施など厳しい内容（24日）◆ネパールで全土ロックダウン開始（24日）、国際線運航停止（22日）◆タイで非常事態宣言、外出や企業活動の自粛、夜間外出と酒類販売を禁止、国際線の乗り入れ停止（26日）◆中国、ビザ保有の外国人も入国禁止と発表、航空機の大幅な運航制限開始（26日）◆ベトナム、全土のパンデミック宣言（30日）。4月1日～22日まで主要都市で不要不急の外出禁止◆バングラデシュ、全ての政府機関、オフィス業務の停止4月4日まで（22日）◆スリランカ、ビザ発給停止（11日）、業務停止開始、日常に必要な不可欠なサービスについての在宅勤務指示（16日）、全域に関して外出禁止令発令（20日）	◆厚労省、3密（密閉、密集、密接）防止を呼びかけ（1日）◆小中高校など臨時一斉休校（2日）、卒業式の中止や規模縮小相次ぐ◆習近平中国主席の来日延期（5日）◆大相撲春場所、無観客で開催（8日）◆プロ野球の開幕延期決定（9日）、選抜高校野球大会中止決定（11日）などスポーツイベントの中止、延期相次ぐ◆新型コロナ特別措置法成立（13日）◆東京五輪、1年程度の開催延期決定（24日）◆外務省、不要不急の渡航中止を要請（25日）◆志村けんさん（70）感染で死去（29日）
4月	◆インド、全土封鎖で農業関係の規制を解除（20日）◆カンボジア、非常事態宣言、移動や集会の禁止など（26日）◆バングラデシュ、自宅待機要請、政府機関、オフィスの営業停止を5月5日まで延長、3回目の延長（23日）◆ネパール 日本人帰国者用のチャーター便運航開始（10日）、◆フィリピン、店舗営業時間制限やマスク着用等が義務化（2日）◆スリランカ、感染状況によって地域毎に短時間の外出を一時解除（20日）	◆新年度スタート、入社式や入学式の中止、縮小相次ぐ（1日）。在宅勤務やオンライン授業広がる◆東京、大阪など7都道府県に緊急事態宣言発令（7日）◆緊急事態宣言を全国に拡大（16日）◆布マスク1住所2枚の配布開始（17日）◆国内感染者1万人超過（18日）、感染の第1次ピーク◆緊急経済対策を閣議決定、国民1人10万円支給へ（20日）
5月	◆インド、外出制限を一部緩和（4日）◆カンボジア、6か国からの入国禁止を解除（22日）◆バングラデシュ、自宅待機要請、政府機関、オフィスの営業停止を30日まで延長、6度目の延長（20日）、31日以降より、規制を一部緩和、県をまたぐ移動は禁止（28日）◆ネパール 30日の閣議においてロックダウンを6月14日まで延期決定、国内に合計31の新型コロナウイルス病院を設置 126か所に新型コロナウイルス治療クリニックを設立。全国20か所にPCR検査施設を設けた。◆フィリピンに入国者はすべて感染症の検査を行い、検疫施設等で隔離を行う。また国内であっても感染者の多い地域からの移動者には隔離措置がとられる（14日）◆スリランカ、経済活動を一部再開（11日）、外出禁止令を夜間のみとする（26日）	◆死者500人超える（2日）◆大相撲夏場所中止決定（4日）◆大相撲力士、感染で死去（13日）◆全国高校野球選手権大会の中止決定（20日）◆緊急事態宣言の解除を発表（25日）
6月	◆インド、ロックダウンを段階的に解除（1日）、感染者が多い地域ではロックダウンを30日まで延長◆フィリピン、感染者数は増加傾向にあるが、深刻な経済危機回避のため段階的に一部緩和を開始（1日）、州をまたぐ移動には移動証の提示が必要（21日）◆バングラデシュ、感染リスクのゾーン分け、ゾーン別行動規制の実施（15日）、累積感染者数10万人を超える（18日）、感染リスク度別の行動規制を8月3日まで継続（30日）◆ネパール 入国管理局がビザに関する全てのサービスを再開（15日）、ロックダウン緩和措置により教育活動、航空便、他郡への移動以外の行動が緩和された（15日）◆スリランカ、総選挙を8月に再延期（10日）、夜間外出禁止令を完全解除（28日）	◆プロ野球公式戦、無観客で開始（19日）
7月	◆インド、感染者が多い地域のロックダウンを31日まで延長（6月29日）、教育機関も31日まで閉鎖、夜間外出禁止の緩和◆ネパール 5日より数回ネパール政府による日本行きチャーター便運航され在日ネパール人のネパールへの帰還実施、20日の閣議にて運航停止中の国内線及び国際線フライトを8月17日から運航を再開することを決定 その後再延期決定、3月24日からのロックダウンを22日（水）から解除、日本政府はネパールの感染症危険情報をレベル3に引き上げ、渡航中止勧告(21日) ◆フィリピン、新規感染者数は増加傾向にあり、特にセブでの陽性率が30％を超える（6日）◆スリランカ、教育省が感染拡大のため全国の学校を閉鎖（12日）病院等の営業は通常に戻る（30日）	◆サッカーJ1リーグ、無観客で再開（4日）◆サッカー、プロ野球観客5千人制限に移行（10日）◆大相撲名古屋場所、開催地を東京に変更し、観客2500人で開催（19日）◆「GoToトラベルキャンペーン」開始、東京都民と東京が目的地の旅は対象外（22日）、9月に東京対象に含める◆全都道府県で唯一感染者ゼロだった岩手県で初の感染確認（29日）
8月	◆タイ、非常事態宣言の9月末までの延長決定、5回目の延長（25日）◆フィリピン、新規感染者急増のためマニラ周辺4州で再びロックダウン開始（4日）、公共交通機関利用時にフェイスシールド着用義務化（15日）、長期ビザを持つ外国人の入国緩和（1日）◆インド、感染者が多い地域のロックダウンを31日まで延長、夜間外出制限がなくなる、教育機関や映画館等は閉鎖継続（1日）、コロナ禍でカレーハウスCoCo壱番屋1号店がオープン（7日）◆カンボジア、外国企業向けに入国規制を緩和（4日）◆バングラデシュ、感染リスク度別に行動規制の延長31日まで（5日）、感染者数302,147名に達し、死者数は4,082名（26日）◆ネパール カトマンズ盆地内で新型コロナウイルスの感染者数が急増加（16日現在感染者26,660名、死亡者数104名）、入国管理局のビザに関するサービスが8月10日から停止、20～26日の間、カトマンズ盆地内3郡における新たな行動規制その9月2日まで延長、28日付けで9月2日より国際線運航の再開を発表、インド及び中国との国境封鎖解除◆スリランカ、総選挙が行われラジャパクサ大統領率いる与党スリランカ人民戦線が過半数の議席を確保した。（5日）	◆沖縄県、独自の緊急事態宣言（1日）、当初は15日まで、その後29日までに期間延長◆全国の1日当たりの感染者1602人で過去最高を記録（7日）◆4月を上回る感染拡大に「今は第2波の真った大中」と感染症学会理事長（19日）

スープ）を配ってくれました。お父さんは「命の救いだよ」と言いました。マスクや消毒系の物は買うのが難しく、値段が高いからです。ロックダウン後は、さらに高くなっています。

◇

私はシャンタ。B D P 小学校の5年



アジア

J A F Sでは、新型コロナの影響で困窮したアジア諸国からの留学生に生活支援金を贈っています。第1期緊急支援募金を用い、9月11日現在46名の留学生に1人あたり3万円を給付しました。

支援金を渡し始めたのは緊急事態解除すぐの頃で、留学生の生活はとて大変でした。アルバイトが2、3カ月できなかった人も多く、生活費や学費の確保が難しい状況でした。

7月に入って徐々にアルバイトが復活し、生活の見通しが出てきたようです。支援金を家賃や光熱費、学費の一部に充てることができ、留学生は少し肩の荷が下りたように思われます。

しかし再び感染が拡大し、収入が減ってしまうことが懸念されます。当会としても、さらに寄付を募り、できるだけ多くの留学生を引き続き支援して

回あったアルバイトが全くなくなり、生活費を確保することがとても難しくなりました。家賃や光熱費などは支払期限が過ぎてしまい、何度も大家さんに電話し、延長してもらいました。また生活費の一部は友達に借りました。日本で就職活動を行っていました。が、コロナの影響で対面での説明会も中止になり、スムーズに活動することができなくなりました。

人と交流できる場がない

中国留学生Kさん（大学1年）
コロナウイルスが流行し、毎日に

新型コロナ支援 第3期募金

アジア各国からの支援要請と、留学生の生活困窮はまだ続いています。ご協力をお願いいたします。振込み先は31ページの青枠内をご覧ください。

いません。とても落ち着かない気持ちです。勉強は、毎日おばあちゃんの前で座ってしています。母は、ランブ燃料を節約するために、日中に勉強するように言いました。

母のいとこが2カ月前に感染し、その家族全員が後に感染しました。私の

まいます。

ここで、留学生から聞き取ったコロナ禍体験の一部を紹介します。留学生の声が取り上げられる機会は少なく、相談相手や相談できる場を知らない人が多くいます。コロナ禍で一層、彼らが孤立している様子が見え、悩みや不安を抱える声が聞こえてきました。

借金してギリギリの生活

中国留学生Tさん（大学4年）

個人経営の店でアルバイトをしていましたが、コロナのせいで来客が少なくなり、店長は店を閉めました。バイト先を失った後、収入がないまま生活しています。家賃と生活費を払うお金がなく、家賃を払えなかったら追い出されます。「お金貸していただけないでしょうか？ アルバイトが見つけられましたらすぐお返しします」と

います。外出はほとんどせず、スーパーに行くだけです。流行前は、学校に通い、その後アルバイトをしていました。しかし流行によりアルバイトもできなくなり、収入がなくなりました。私は自分で生活費を稼いでいるので、とても生活に困っています。1日800円程度で食費はやりくりしてしま

自粛期間が終わり、アルバイト先に連絡したところ、これから週2回シフトに入ることができるようになりました。また日本政府からの給付金も届いたので、家賃に充てました。しかし週

ひいおじいちゃんは入院して亡くなった後で、コロナと診断されました。学校が恋しいです。学校に行って勉強したいです。友達や学校の行事が恋しいと毎日話しています。学校で、感染を防ぐためのマスクとハンドソープを家族分もらい、感謝しています。

たくさんの人に頼み、約半月経ったころ、3人が「貸してあげる」と言ってくれました。3人から計6万円を借りて家賃に充て、残りはアルバイトを探す交通費に充てました。食事は寮に住んでいる寮生から少しもらい、なんとか1カ月無事に過ごしましたが、家賃も生活費も、アルバイトを探すための交通費もなくなり、さらに3万円貸してもらいました。

友達の紹介を受け、6月から飲食店に採用されましたが、週3時間のみの勤務で交通費はもらえず、靴代も自己負担のため収入が残りません。ただアルバイトがないと、借金は返せず住む場所もなくなるので困っています。

頼みの就職説明会も中止

ベトナム留学生Gさん（大学4年）
コロナウイルスの流行により、週4

2回のアルバイトだけでは、生活費を稼ぐことは難しいです。

入学したばかりの大学もオンライン授業のため、人との交流の機会がありません。先生と直接話す機会もないので、授業についていくのも大変です。

◇

このように異国でのコロナ禍で不安な日々を過ごしていた留学生でしたが、支援金を受け取ると、明るい文面のお礼の手紙「写真左」を届けてくれました。少し安心しました。

（J A F S スタッフ 坂口優）

アジア協会 アジア友の会のご支援者の皆様

JAFSの皆様を通じて、支援金を受け取れました。コロナウイルスが流行する中、日々の食費や光熱費、家賃の支払いに困っていました。頂いた支援金は、生活費や家賃に充てたいと思います。

新型コロナウイルスのため、母国にある私の家族とお父さんが仕事ができなくなったり、経済的に困窮に陥ったから仕送りもできなくなりました。そして、日本で留学している私がコロナの影響で働いていた飲食店が閉店になり、一ヶ月ぶりにアルバイトができなくなると給料ももらえなくなりました。生活が大変になりました。その時に私がどうやって生活をしていくのかとずっと考えていました。考えれば考えるほど頭がいびきに悩まされ、ストレスがたまりました。更に就活もできていないのでコロナの影響で就活も全く進まなくてばかりです。

しかし、大変な状況の中にもJAFSの皆様が助けてくれて本当に感謝しています。その温かい心のおかげで私が一層強くなっています。自分も最も頑張りたいと誓いました。頑張ることは自分の将来のためだけではなく、他人のための意味も含むと思っています。将来的にJAFSの皆様のように社会に貢献できるようにもなりたいと考えています。

現在、日本では新型コロナウイルスの状況が少しでも落ち着いてきたと思いますがJAFSの皆様とご家族がいつも元気になるように申し上げます。

ご支援いただきありがとうございます。

アジア協会 アジア友の会のご支援者の皆様

アジア協会 アジア友の会の皆様を通じて、支援金を頂きました。

コロナウイルスが流行する中、アルバイト先の飲食店の営業時間が縮小し、働くことができず、収入が途絶えてしまい、

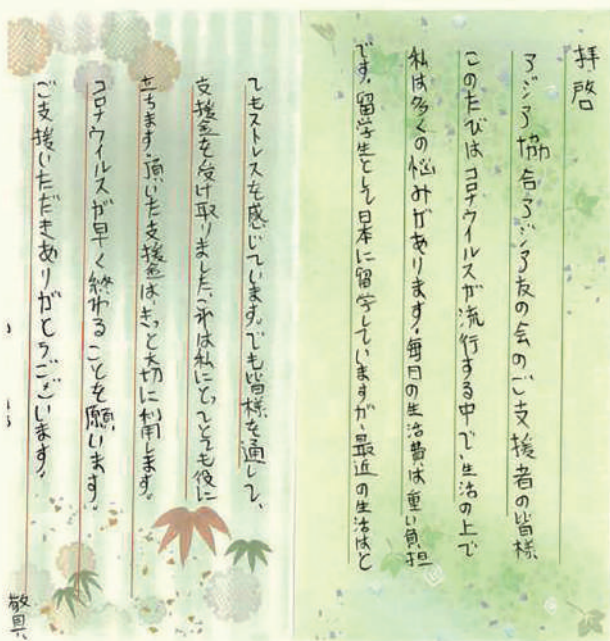
日々の生活費や学費に困っていました。

頂いた支援金は、生活費にあてて生計を立てています。

この支援金は本当に有難く、感謝の気持ちでいっぱいです。

このご恩は、学業に励み、しっかり日本で生活していくことでお返ししていくことだと思っています。

この度は、ご支援いただき本当にありがとうございました。





農村の街角風景。様々な交通手段、そして人波＝2月、ビハール州ラージギル

ガンジス川の 風に吹かれて

インド仏跡巡礼の旅 ①



特別寄稿 加藤 千洋
(元朝日新聞アジア総局長)

「巨象」と「巨龍」、やはり似て非なるもの？

短期間かつ視野も狭い旅の見聞からインドと中国という二つの大国をマナ板にのせて論じるなど、大変おこがましいことだと自覚する。ただ特派員と

して中国に二度駐在して日々の報道に携わっていた頃から、いつか試みたいと温めてきたテーマでもある。浅薄な観察からの性急な判断、あるいは勝手な思い込みなどもあるが、少々お付き合いただけたら幸いだ。

ライバル中国と時差10年

目覚ましい経済成長で中国とインドが、「次の超大国」「次の次の経済大国」などとメディアで取り上げられ、それぞれ「巨龍」と「巨象」にたとえられたりしている。ともに広大な国土に10億をはるかに超える巨大人口を抱え、かつダイナミックな発展をとげて



【仏跡巡礼の行程】

2月19日：夜、ニューデリー空港着。同泊／20日：空路ガヤへ。バスでブッダガヤへ（以後6日間、同じバスでビハール州を中心に約1000kmを走破）同泊／21日：ブッダガヤ、ラージギル、ナーランダ。ラージギル泊／22日：ラージギル、ヴァイシャリ、クシナガル。同泊／23日：クシナガル、国境超え、ルンビニ（ネパール）。同泊／24日：ルンビニ、国境超え、ウッタール・プラディシュ州ワラナシ（ベナレス）。同泊／25日：ワラナシ、サルナート、ワラナシ。空路ニューデリーへ。同泊／26日：ニューデリー参観後、深夜便で空路日本へ。機中泊。



いるのだから、そう呼びたくなるものわからぬではない。
共通点が多い。世界一、二を争う人口大国だ。2019年末に中国は14億の人口に乗ったようだが、インドが10年以内に追い抜くと予測される。ともに長い歴史を積み重ねた多民族・多言語・多宗教国だ。それゆえの社会のきしみも少なくない。

民族・宗教上の矛盾といえば、9割を占める漢民族のほかに55の少数民族からなる中国ではチベット問題やシルクロード地方に多いイスラム教徒のウイグル問題が典型だろう。

インドは「数えられないくらい」と

「一人っ子政策」がある。人口増抑制を目指して中国は「ひと組の夫婦に子どもは一人がのぞましい」とのモデルを半ば強制的に国民に押し付けた。それが40年の時を経て、当初から危惧されていた「少子高齢化現象」が顕在化。政府はにわかに「二人っ子政策」へとハンドルの切ったところである。

中国の都市部は一人っ子家庭がほとんどで、「多子多福」という伝統観念が根強く残り、人手が必要な農村部では2人以上の子持ち世帯も少なくない。それでも元気に駆け回る子どもの数はインド農村の方が圧倒的に多い印象だった。

社会主義の看板を下ろさず経済政策に資本主義的手法を大胆に取り入れた中国の「改革開放政策」は、短期間にGDPを世界2位に押し上げた。急成長を支えたのは無尽蔵といえる豊かな若年労働者の存在だった。しかし高齢化が進んで数年前から労働力不足が顕在化し、賃金の上昇も目立ち、コロナ禍の影響以前から成長率にはブレーキがかかっていた、というのが現状だ。

そこで他の発展途上国、とりわけ人材豊富なインドに注目が集まる。なにせ国民の平均年齢が30歳以下というから、これから人口ボーナス（働く世代が多いことで経済成長が促進される）を謳歌する時代に突入するのだ。

中国が鄧小平のリーダーシップで改革開放政策に踏み出したのは1970

年代末。インドは計画経済システムの
手本にしたソ連が解体し、湾岸危機で
出稼ぎ労働者の送金が細るといった事
情から経済危機に陥り、窮余の一策で

経済自由化に転換したのは1990年
代初めだった。
やや先走った予測になるかもしれな
いが、これからがインドが中国との



サルナートの遺跡、ダメーク塔の前でサリー姿の女性たちと記念写真＝2月、ワラナシ郊外

「10年の時差」をつめるチャンスとい
えるかもしれない。

サリーを捨てぬ女性たち

ただ労働力という点で一つ気になる
ことがあった。それはインドの女性の
服装に関してだ。若い世代にはジーン
ズや学校の制服のスカート姿も見かけ
たが、成人女性が身につけるのは、や
はりサリーである。

サタジット・レイ監督の映画『大地
のうた』のほかにも、私のインドにつ
いての蒙を啓いてくれた書物がある。
例えば作家堀田善衛のロングセラー、
『インドで考えたこと』（1957
年、岩波新書）だが、それに以下のよ
うな一節があったのを思い出した。

「小さな塚のように土を盛りあげ、
そのいただきに井戸枠がはめ込まれ、
牛がそのまわりをグルグルゆったりと
まわって地下水を汲み上げている……
赤、青などの色のどぎついサリーを着
て、足首に金属の輪をはめこんだ女が
素焼の壺に水を入れ、それを頭の上
のせて運ぶ。二千年前もまたこうだっ
たのだろう」

驚くなかれ、堀田の観察とほとんど
変わらぬ情景を、私も何度か目撃し
た。「土を盛りあげ」「牛がグルグル
まわって」という井戸の構造もそっく
りそのままだった。

ヒマラヤ登山隊のリーダー役で「行
動する学者」とも称された京大教授で

フランス文学者、桑原武夫の著作を一
時読み漁ったが、『発展しつつある国
々』（1963年、河出書房新社）に
収録された文明批評的なインド紀行に
もサリーについての考察がある。

ムンバイ（ボンベイ）を訪ねた桑原
は「インドの都市で洋装の女が一番多
かった。インド女性は幼い女の子は洋
装をしているが、年ごろになるとサリ
ー姿に変わる」と指摘した上で、発展
途上国インドが近代化するためには
「中国の女性があの美しいシナ服を
すてた」ように、「美しい伝統（サリ
ー）と断絶する文化革命が必要だ」と
の大胆な提起をする。

遺跡の修復工事や道路普請の現場で
サリー姿の女性の姿を目撃した。その
仕事は土砂やレンガを入れたザルを頭
にのせて運ぶ重労働だが、単純な作業
に限られていた。伝統と近代化の相克
というのか、貧しさから脱却して高度
な産業国家に到るためには、何らかの
解決策が求められる問題だと、私も感
じた。

最後に司馬遼太郎風に言う「国の
かたち」について比較を試みたい。両
国の背骨をなす政治制度についてであ
る。

インドは独立以来一貫して議会制民
主主義を基本的な政治制度としてき
た。国民の意思次第で政権交代があり
うる総選挙は、有権者9億人が投票す
るというマンモス選挙だ。候補者を立

てる政党・政治団体は数百を数え、国
民はそれを「世界最大の民主主義だ」
と誇らしげに語る。
他方、中国は共産党がすべての権力
を握り、社会の隅々まで管理・統制す
る一党独裁国家である。お飾りのよう
な8つの民主諸党派があるが、すべて
が「共産党の指導」を受け入れている。

我々が訪ねたビハール州や隣接する
ウッタルプラディシュ州ではローカル
選挙（ガイド氏によると県レベル）の
真つ最中だった。街角や道路脇の電柱
などにポスターが目立った。日本のそ
れより大ぶりなものが多く、場所や量
も制限がないようで、候補者と思われ
る複数の顔写真がデカデカと印刷され
た畳一枚分くらい的大型看板が到る
ところに張り出されていた。

こうした風景は中国では見かけな
い。経済改革は大胆に取り組んできた
中国だが、歴代政権は政治改革には極
めて慎重だ。民衆が一票を行使して政
権選択するという選挙制度はないし、
それを求めて声をあげれば身に危険が
及ぶ可能性がある。

鄧小平が路線を敷いた改革開放政策
はいわゆる権威主義的開発モデルで、
全権を握る共産党執行部が上意下達で
効率よく政策を推し進めてきた。

その好例が「一人っ子政策」だろう。
様々な異論反論を封じ込め、人権無視
の国際批判にも耳をふさぎ、だれも逆
らえぬ「国策」として実行してきた。



「若いインド」を象徴するような青年たち。後部の男は携帯
電話を見せている＝2月、ビハール州のガソリンスタンドで

り切れなかったイン
ド。8月末現在の感
染者数は中国9万人
弱に対し、インドは
362万人。どちら
の政府の対応が正し
いかは、単純に結論
を出しにくい問題だ
が。

中国との投資環境
の比較で必ず指摘さ
れるインドの弱点は
インフラの未整備、
とりわけ交通インフ
ラが劣る点だ。中国
は90年代以降、道路
・鉄道・空港といっ
た交通インフラの整
備を上からの一元的
指導で進め、それこ
そあつという間に世
界有数の高速道路網と高速鉄道網を築
き上げ、地方空港は驚くほど立派なタ
ーミナルビルを備えるにいたった。

インドはというと、2000年代に
入って首都ニューデリーとコルカタ、
チェンナイ、ムンバイの4つの主要都
市をひし形に結ぶ総延長6000km近
い幹線道路ネットワーク、いわゆる
「黄金の四角形」の建設計画に着手し
ているが、大きく後れをとっている。

我々がバスで走ったビハール州の道
路は、ガイド氏によるといわゆる国

道や州道クラスだが、ほとんどが2車
線。大型車同士がすれ違う場合、シク
ロや自転車、時にはワラや材木をう
ずたかく積んだ牛車を避けながらのノ
ロノロ運転にならざるを得ない。主要
幹線の拡幅工事や路面整備は、やっ
と緒に就いたばかりという印象だった。
こんな風に見てくると、ともにアジ
アの地で世界文明を育み、いまIT分
野も含めた新興工業国として熱い視線
を浴びる両国には、多くの共通点もあ
れば、やはり大きく異なる顔もある。
そもそも2500年ほど前の時代に
インドにお釈迦さまが現れた頃、中国
には儒家の祖となった孔子が登場して
いる。これは単なる歴史の偶然であろ
うか。現代に近代、時には中世、古代
もかぶさるような「巨象」と「巨龍」
を比較するには長いスパンの歴史的視
点が必須だろう。インドについては英
国統治の影響、カースト制の現在、独
立後の農地改革の実態等々、該博な知
識が必要だろうが、どれも持ち合わせ
ぬ論者としては、両者は似て非なる存
在である、という平凡な結論で締めく
くらざるを得ない。

かとう・ちひろ 1947年、東京生ま
れ。東京外国語大学卒。1972～201
0年、朝日新聞社で大阪社会部記者、北京
特派員、アジア総局長（バンコク）、中国
総局長（北京）、外報部長、論説委員、編
集委員等。2010～2018年、同志社
大学大学院教授。2018年から平安女学
院大学客員教授。

村人も作業し井戸が完成

この村は、街の中心から5kmほど離れたところに位置しています。村人は農業に従事するほか、家畜を飼って生活の足しにしています。飲み水のほか生活に必要な水は1kmほど離れた溜め池からくんできます。水は手で運ぶほか荷車や自転車で運んでいます。水くみついでに、その池のほとりで水浴びもして帰ってきます。村人全員の念願だった井戸を作っていただき本当に感謝しています。村人たちもコンクリートパイプを井戸に入れる作業、井戸用地の整備を手伝いました。



タケオ州トレアン郡プレイスリユック地区ソチャン村 受益者：58名（10世帯）
井戸形式：露天式（深さ30m）

【寄贈者】オムロン労働組合 様

【寄贈者】オムロン労働組合 様

タケオ州トレアン郡プレイスリユック地区ニール村 受益者：39名（8世帯）
井戸形式：露天式（深さ32m）



池の汚染水から安全な井戸水へ

街の中心から5.4kmほど離れた農村です。カンボジアの他の村と同様、この村でもため池が主な水源です。その水は汚染されていることを村人は誰でも知っていますが、利用するしかありませんでした。井戸が贈られると知り、村人たちも農作業を休んで、井戸用地の整備やコンクリートパイプを井戸に入れる作業を自発的に手伝いました。今後は自前の井戸から安全な水がいつでも手に入るの、本当に感謝しています。政府も村のため、道路整備などしてくれています。

水の心配から解放された

国中でも特に水を得ることが難しいこの地域は、昨今の気候変動により干ばつが頻繁に起こり、村人たちの生活に多大な影響を及ぼしていました。安全な飲料水となる井戸がなかったために、村の女性や子どもたちは水を得るために、遠くの井戸まで長距離を長時間歩かなければならませんでした。そこで本会の現地提携団体サルボダヤが村で調査をし、村人たちと相談しながら、現在の場所に井戸を設置することになりました。これで水の心配から村人が解放されました。



北中部州ポロンナルワ県ケガルガマ村 受益者：165名（27世帯）
井戸形式：露天式（深さ8m）

【寄贈者】小高将根 様

国中でも特に水を得ることが難しいこの地域は、昨今の気候変動により干ばつが頻繁に起こり、村人たちの生活に多大な影響を及ぼしていました。安全な飲料水となる井戸がなかったために、村の女性や子どもたちは水を得るために、遠くの井戸まで長距離を長時間歩かなければならませんでした。そこで本会の現地提携団体サルボダヤが村で調査をし、村人たちと相談しながら、現在の場所に井戸を設置することになりました。これで水の心配から村人が解放されました。



北中部州ポロンナルワ県ケガルガマ村 受益者：165名（27世帯）
井戸形式：露天式（深さ8m）

【寄贈者】小高将根 様

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

いのち 生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■（2018年4月現在）

インド＝60万円 フィリピン＝33万円
カンボジア＝28万円 スリランカ＝22万円
ネパール＝17万円（パイプライン＝25～150万円）
バングラデシュ＝浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで 井戸ができた村

井戸ができて病気が減った

貧しい村に井戸ができる前、村人の約10%しかトイレを使っていませんでした。そのような生活では、村人たちが毎日1～2回水をくみに行く溜め池も汚染されています。多くの村人は煮沸して飲んでいますが、発熱や下痢といった不潔な水によると思われる病気に悩まされていました。病気になっても、貧しい暮らしで医療費の負担は容易ではありません。新しい井戸ができたことで、安心して飲める水が十分に得られるようになりました。病気になることも少なくなりました。



タケオ州トレアン郡コネアム地区タマダ村 受益者：51名（9世帯）／井戸形式：露天式（深さ19m）

【寄贈者】オムロン労働組合 様

【寄贈者】オムロン労働組合 様

安心・安全な水で生活向上

村人は主に農業に従事しています。さらに収入を増やすため、家畜を飼育し、プノンペン市内に出稼ぎに行っている人も多くいる貧しい村です。1kmほど離れた清潔とは言えないため池に毎日水をくみに行くことは、女性や子どもにとって負担の多い仕事でした。井戸ができて、安心・安全な水が手に入るようになったことは、村人の日常生活向上に大きく貢献してくれました。井戸を掘る際、4人の村人が、コンクリートパイプを井戸に入れる作業や井戸用地の整備を手伝いました。



タケオ州トレアン郡コネアム地区タマダ村 受益者：37名（8世帯）
井戸形式：露天式（深さ18m）



ロネアム地区トラパン・クレイ村②
受益者：32名（8世帯）／井戸形式：露天式（深さ18m）



プレイスリュック地区トラパン・ベン村①
受益者：35名（8世帯）／井戸形式：露天式（深さ22m）

プレイスリュック地区トラパン・ベン村②
受益者：45名（8世帯）
井戸形式：露天式（深さ21m）



クバブ地区サーモアクロム村
受益者：45名（9世帯）
井戸形式：露天式（深さ22m）



ロネアム地区トラパン・クレイ村①
受益者：44名（8世帯）
井戸形式：露天式（深さ21m）

「水くみは子どもや女性の仕事でしたが、井戸ができ水くみから解放されました」プレイスリュック地区トラパン・ベン村①
「今までは水を煮沸して飲んでいましたが、安全な井戸ではその必要がないのでうれしいです」同村②
「ため池には、家族全員で水くみに行っていました。今は井戸がすぐ近くにでき楽になりました」クバブ地区タマダ村
「井戸ができる前に使っていたため池の水は、3～5月は干上がるので困っていました」同地区サーモアクロム村



クバブ地区タマダ村／受益者：61名（12世帯）
井戸形式：露天式（深さ21m）



ロネアム地区ソフィ村②
受益者：39名（8世帯）
井戸形式：露天式（深さ18m）



ロネアム地区ソフィ村①／受益者：55名（10世帯）／井戸形式：露天式（深さ21m）

【寄贈者】イオングループ労働組合連合会 様

村人たちと一緒に 6村に10基を建設

毎年多数の井戸を寄贈されており、この度もカンボジア・タケオ州トレン郡の6村に10基の井戸を寄贈くださいました。これらの村では9割以上の住民が農業に従事していますが、事情が悪く、遠くの寺のため池の水を使っていました。村人も用地整備やコンクリートパイプを井戸に入れる作業などを自発的に手伝いました。家のそばに井戸ができた村人たちからの感謝の声です。
「今まで不衛生な水を使うしかありませんでしたが、安全な水がいつでも使えるようになってうれしいです」ロネアム地区ソフィ村①
「煮沸しなくても飲める水が手に入るようになって感動しました」同村②
「乾季でも干上がらない井戸ができうれしいです」ロネアム地区トラパン・タム村①
「動物が飲んだり排泄する池の水を飲む生活から解放されました」同村②
「ため池と違って、安全な水が手に入る自分たちの井戸が近くにでき、とても喜んでいます」ロネアム地区トラパン・クレイ村①
「井戸ができる前は、村人は毎日水くみに時間を費やしていました」同村②



ロネアム地区トラパン・タム村②
受益者：25名（7世帯）／井戸形式：露天式（深さ20m）



ロネアム地区トラパン・タム村①／受益者：25名（8世帯）／井戸形式：露天式（深さ21m）



ネパール2年目の 揚水プロジェクト

農業改革も一歩ずつ着実に

ネパール、シンドウバルチョーク郡
インドラワティ村10区（旧ボテシパ
村）で2019年3月、外務省の平成
30年度日本NGO連携無償資金協力か
ら資金供与を受けて始めた、震災復興
支援プロジェクトの1年目が完了しま
した。現在は令和元年度と同資金協力
から引き続き資金給与を受け、2年目
の事業に取り組んでいます。

1年目は主に、①事業地全域の人々
に行き渡る量の水を川から持続的にく
み上げる揚水システム本線の建設 ②
揚水システムを維持・管理する水管理
組合を村人で形成 ③村の農業基盤を
つくるために農業組合を形成し、技術
研修やリーダーシップ研修をする――
などの活動をしました。生活と農業に
必要な水を安定的に得られる、持続可
能な地域づくりを目指しています。

揚水システムは、川辺の井戸水を約
800m上の山頂まで4カ所のタンク
を通して徐々にくみ上げるという大規
模なものです。農業組合では、地域の
リーダーに研修をしました。特に、土
壌改良に重きを置き、家畜の糞尿や雑
草、落ち葉などを使って、有機たい肥
を各家庭で作りましたⅡ写真。

2年目は、完成した揚水システムの
本線から各集落に飲料水と農業用水
を供給するための支線を設置していま
す。また、水管理組合に技術や設備に
関する研修、農業組合には引き続き技
術研修をする予定です。

コロナ禍の影響で、建設作業は遅れ
ながらも始まりましたが、研修などの
人が集まるプログラムが実施できてい
ません。予防や対策を考えながら可能
な範囲で取り組むべく、検討中です。

また、集落では、共同水くみ場（水
道）が必要となります。JAFSの支
援者から寄付金を募って設置します。
コロナ禍で仕事を失った多くの村人が
農業を通して収入を得ることができ
る基盤をつくるためにも、本事業を今進
める必要性を改めて感じます。ぜひ皆
さまのご協力をお願いいたします。

当初、村人の多くは、村に水が来る
ことを信じていませんでした。それぐ
らい現地にとっては夢に近い出来事な
のです。しかし建設を進め、農業組合
を中心に村人たちと関係を深めていく
中で、村人たちの事業に対する期待も
増えています。農業組合のメンバーが
各集落のリーダーであることを少しづ
つ理解し、自らの意見を発言するよう
になったのも、大きな変化です。

この一年、村に関わり、村人たちが
主体となって地域作りを進めることの
難しさを感じました。JAFSはあく
までもサポート側です。村人が自立し
た考えで行動できるよう、私たちはま
ず村人としてしっかりコミュニケーション
を取り、村に合う方法でプログラムを
進める必要があると感じます。

（JAFS元ネパール駐在員

中川 寛子）

本誌表紙のタイトル「アジアネッ
ト」の上に毎掲載している言葉が、今
号から変わったことにお気づきでしょ
うか。

『生命の水 うるおす未来』

（前号までは「なくそう貧困。命の水
を！」でした）

アジア協会アジア友の会（JAF
S）が昨年の創立40周年を機にとりま
とめた新ビジョンのスローガンです。
次の10年後の当会の組織や活動のある
べき姿を討議してビジョンにまとめ、
6月の当会社員総会
で承認されました。
表紙には載せてい
ませんが「く全ての
人に1日15ℓの水を
届けよう」という
サブ・スローガンも
つくりました。

新ビジョンの内容

は次のような組織・活動・運営の3項
目から成ります。

▼組織

エスディジェス

SDGs（国連で採択された持続可
能な開発目標）の考え方に沿って、国
際協力活動に国内外の仲間とともに取
り組み、アジアの国々と人々の自立を
常に支援します。「誰もが生まれでき
て良かったと思える社会の創造」を実
現できる組織をつくります。

▼活動

JAFSの会員や支援者、ボランテ

イアを増やして積極的に活動に参画し
てもらい、一般市民に共感していただ
ける、より有益な市民型国際NGOの
役割を果たします。そのために事業を
選択・集中させ、JAFSならではの
独自で専門性の高い活動を国内外で展
開します。

▼運営

確かな財政を打ち立て、各部門の役
割分担が明確な組織をつくります。会
員・スタッフらすべての人がバランス
よく協力・協調できるようにしつかり

いのち 生命の水うるおす未来 く全てのの人に1日15ℓの水を届けよう

と運営し、明るく働きやすい職場をつ
くります。

わかりやすい活動目指して

これまで関西発の国際協力NGOの
草分け的な存在として、多くの人々と
協力し合いながら、全国へ、そして海
外へと活動の輪を広げてきました。そ
して、さらにいっそう皆さまから支持
していただける市民活動団体となる
よう、今、何をする必要があるのか
を現状をとらえ直して考え、将来への

展望をまとめたのが、この新ビジョン
とスローガンです。

まず何よりも第一に、「誰にとつて
も、わかりやすい」ことを目指しまし
た。

JAFSは現在、東・南アジアを中
心に、貧困に苦しむ人々のために、教
育、職業訓練、災害からの復興など、
幅広い分野の支援活動に取り組んでい
ます。その最初となったのが1980
年、きれいで安全な水を得られないで
困っていたインドの村に建設して贈っ

た1基の井戸でした。

私たちの会の出発点ともいえるこの
「水」へ立ち帰り、支援地の人々のの
どをきれいな水でうるおすだけでな
く、その土地をうるおし、その地の人
々の生活をもうるおしたい。そして支
援する人も、支援される側の人々と協
力し合うことで人間関係がうるおい、
ひいては心がうるおされ、社会全体が
幸せでうるおうことにつながる――と
いう願いを、この新ビジョンとスロー
ガンに込めました。

サブ・タイトルにある「1日15ℓの
水」とは、1人が生存するのに必要な
最低の量です。しかし世界には、この
水量を確保できていない人々が数多く
います。それで具体的な目標として明
記しました。

未来会議つくって行動指針

これから、ビジョンを実行するため
の行動指針をつくります。そのために
今年度、経営企画戦略委員会（JAF
S未来会議）を新しく設け、アイデア
を出し合っています。

皆さまからご意見・ご提言を

新ビジョンによって、これまでの40
年間の活動の蓄積がさらに生かされ、
JAFSそしてAFSのネットワーク
が、もっと価値あるものへとつながっ
ていくと信じています。ぜひお力を貸
していただきたいと願っています。ア
ジアとJAFSの未来を、ともにつく
っていきましょう。皆さまからのご意
見・ご提言を歓迎します。

ビジョンの全文を、当会ホームペー
ジでご覧いただけます。必要な方には
お送りします。事務局（担当…熱田、
電話06・6444・0587）まで
ご請求ください。

（JAFS常任理事・2019年
度ビジョン委員会委員長・現経
営企画戦略委員長 米田明正）



アルミの国際価格に一喜一憂

アジア協会アジア友の会富田林地区会は約30年間、ネパールに学校を建てる目標のもと、一丸となって邁進（まいしん）して参りました。今までに4校を建設し、今5校目を計画中です。

学校を建て始めた当初は5教室の校舎が100万円ぐらいで建設できましたが、ネパールもインフレで、3校目からは同規模の学校が200万円程度かかるようになりました。

学校建設の資金は、地域の皆様のご協力の下に、月1回の滝谷不動尊駅前（たきやふどうそん）のリサイクルバザー、年2回の住道駅前（すみちえき）バザー、そのほか不定期に開催される地域のふれあいバザーなどに出品し、その収益を積み立てたり、地域の皆様の協力でアルミ缶を収集し「写真Ⅱ」、回収業者に販売したお金を充てています。資金の約8割はアルミ缶販売からです。

30年間には何回も経済変動がありました。国際商品であるアルミは価格変動が激しく、最安値はリーマンショック時の1キロ（350cc缶約70個）40



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへⅡ裏表紙にアドレス、連絡先

空き缶を売って ネパールに学校



新入会員を歓迎

今年も恒例の新入会員歓迎会を8月1日にJAFSの会議室で開催しました。新型コロナ感染防止のため例年と

違い、後半の会食を中止せざるを得ないのは残念でした。しかし新入会員の皆様とは、今後のJAFSの活動をいろいろ一緒にできれば良いですね。

会には6名の新会員が来てくれました。うち1名は海外からの留学生、また1名は関西への用事と組み合わせて横浜から来てくれました。

会員綱領の唱和から会が始まりました。綱領はやはりJAFSの目的・精神ですからね。村上事務局長が、インドで水を飲んで腸チフスにかかり、命の水の大切さを痛感した体験を語り、多くの人の助けを得てJAFSを設立、40周年を迎えたことを話しましたⅡ写真。各新会員から自己紹介をしていただき、JAFSの現在の活動概要を説明しました。JAFSが、日本のみならず海外からの若い人も含め、会員の輪を広めていければと願っております。

（JAFSなわ西地区会長 伊藤勝）

持ち直しましたので、9月はV時回復してほしいものです。

JAFSのボランティアをしながら国際経済の影響を受けるとは思いもよりませんでした。勉強になりました。これからも、地域の方の協力を得て継続していきたいです。また元気なうちに学校を見学に行きたいと考えています。

（JAFS理事 沖田文明）

熊本の豪雨被災地へ支援



要請を受けて贈った女性用長靴



被害を受けた人吉市中神町大柿集落 = 7月16日

7月4日、熊本県南部を襲った豪雨で球磨川が氾濫し、人吉市を中心に浸水被害が出ました。「コロナ禍の中でどんな支援が可能だろうか」と思い巡らせていたとき、JAFSに一本の電話がありました。「洪水被害者に不足している長靴などの物資を支援してもらうことはできますか?」。2016年の熊本地震の際、益城町とともに支援活動をした当時の自治会長、宮永和典さんからのSOSでした。

地震時の市民活動仲間が被災地で支援を始めたが、必要な人に必要な物資が行き届いていないのを見て、JAFSなら動いてくれるのではないかと支援を要請くださったとのことでした。JAFSでは、「コロナで現地に行けないが、大阪からできることがあるなら対応しなければ」と、すぐに募金に取り組むことにしました。企業へ物資寄贈の依頼もしました。

被災地の拠点になっているのは、人吉市のボランティア「ひまわり亭災害支援ネットワーク」で、リーダーは本田節さん。経営していた郷土料理レストラン「ひまわり亭」が浸水により営業できなくなり、そこで炊き出しや、支援が特に届きにくい自宅避難生活者への物資支援を、仲間と連携して進めています。復興を目指した準備も始

め、地域の人たちの力になっているパワフルな女性です。

以下は本田さんから皆さまへのメッセージです。

「一人でも多くの被災者の皆さんの元に届くように在庫を調整しながら、お出ししております。皆さん、大変喜ばれております。本当にありがとうございます。地区の小さな集落に物資を届ける際には、お弁当を準備し一軒一軒回って届けております。

市街地はたくさんの方のご協力のもと、少しずつ片付いてきていますが、市街地以外では、コロナの影響で県外からのボランティア受入もできず、人手不足のため、まだまだです。仮設住宅への移動が始まります。少しでも被災者の皆さんの心の支えになれるよう、長期に渡り支援していきたいと思っています」

JAFSが初めて取り組んだクラウドファンディングでは目標額30万円を達成。緊急支援募金と合わせて113名から68万4452円が集まりました。これをもとに、当初から要望のあった女性用長靴150足を届けることができたほか、次のような寄贈物資も届けることができました（敬称略）。

- ・(株)モンベル・レインジャケット560着、レインパンツ320着
- ・(株)ジャックス・歯ブラシ2万本
- ・中西豊次・奥村敏之…介護用大判ウエットタオル80袋
- また認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）を通じて、(株)ニッカ、メロディア（株）、アース製薬（株）、アサヒグループ食品（株）からも、各社製品を寄贈いただきました。

新型コロナの禍中にもかかわらず多くの方が応じてくださいましたこと、大変励みになりました。

本田さんは年内はレストラン再開はせず、民間のボランティアセンターとして支援活動続けることを決められたとのこと。少しでも寄り添うことができればと考えています。引き続き、よろしく願っています。

（JAFSスタッフ 熱田典子）

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）

2020年6月1日～8月31日

●維持会員

赤野孝一／UDINMOHN／清水総代
／西井えつ子／西井継秀／古本靖久／
横手美知代／

●賛助会員

孟効卿／柳田芳孝

●法人賛助会員
（公財）大阪府国際交流財団／ナノ
ゾーンジャパンホールディングス(株)

●里親会員

宮城薫／横手美知代

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）

2020年6月1日～8月31日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費

新井和彦／大麻豊／小山田宗弘／柏木
道子／北垣俊一／暮部恵子／金剛一智
／近藤眞道／崎野哲史／佐藤正隆／實
清隆／清水茂實／末広真樹子／高井準
雄／谷口京子／津川美世／内藤能／根
津千枝子／萩尾千里／福岡好嗣／藤原
道子／船戸康夫／松本督／南野紀美子
／宮川眞一／吉田郁夫／吉田幸子／吉
田俊朗／吉田暢子／芳野徳洋／米田明
正／渡辺治彦／渡辺秀規／渡邊瑠璃子

●維持会費

青木洋介／秋山タカ子／上城戸清隆／
阿部有紀／天野澄子／新井隆郎／荒川
雄毅／有山加代子／板谷静夫・博子／
一瀬由起子／伊藤ヒサ／伊藤雅子／伊
藤亮三／岩田史子／岩坪小夜子／上島
淳之亮／植田直弘／上田裕美／魚森清
恵／江川美知子／大木洋子／大須賀空
出子／大槻誠子／大山愛子／置田義男

●フィリピン台風被災者支援寄付
岡本朋子

●地球幸せ募金
小代利子

●東日本大震災復興支援寄付
東代清隆

●貧困対策指定寄付
八木健次

●補助金

○サイクル・エイド事業
（公財）JKA

●新型コロナウイルス緊急募金

赤川泉／明見勝好／明見基／熱田昭子
／天野澄子／荒谷静／アンドルーゴ
ードン／池田直樹／石崎正人／伊藤勝
／今井利子／岩口摩理子／(株)ウエスト
フィールド／梅本史郎／大阪西ワイズ
メンズクラブ／大塩節子／大谷タカコ
／大谷光顕／大平さゆり／小川富／置
田義男／奥村香保里／小原純子／粕谷
香代子／加藤繁生／加藤紀子／加藤洋
／チャリティーショップ KANIC／壁
谷桂子／鎌田智恵子／神谷尚孝／栢下
壽／川北初美／川崎壽／川治依子／川
端勝／川村忠／岸本啓子／北畑哲治／
網田悦子／木下良子／木村千鶴／小出
裕司／興水飛鳥／小林久仁子／小林剛
／近藤知佐／斎藤亜希／佐伯裕子／坂
本浩一／坂本喜代美／佐々木実／佐藤
理香／澤村和子／三本松三津江／塩尻
昭枝／四條囀国際ボランティア・セン
ター／設楽宏幸／篠原勝弘／情報労連
岐阜県協議会／白方誠彌／仁義修・千
春／新羅和子／菅洋子／菅野謙二／大
仁孝太郎／平眞知子／高木節子／高岸
泰子／高澤美貴／高瀬稔彦／瀧川真紀
／田口紀彦／田中壽美子／辻賢二／筒
井みゆき／壺井利一／寺山正道／東代
清隆／徳永正和／富松英二／中嶋啓子

／中嶋茂／中須賀敬子／中野通／中
村敏子／中村正憲／中山忠愛／西優
子／西川京子／西田愉子／橋本末子
／畠中美代子／畑中義雄／服部道代／
羽田孝彦／浜田春樹／早崎鉄也／平井
静／比楽俊子／福西礼子／船戸尚子／
麓司／古井紀行／本田伸一／本間耕
一／前田美保子／松浦正／松崎真理
／松本武彦／丸井和子／宮古聖ヤコブ教
会／宮本照佳／村上公彦／森川佐和子
／山尾修／山口幸子／山路英子／山路
俊一／山野ふさ好・隆一／吉川華世／
吉田郁夫／吉田幸子／吉田俊朗／米
澤澄子／若元良嗣／若山治子／ヨシ
ダヒロコ／ミングチミナミ／Global
Communication Support office

●九州地方豪雨被害緊急支援
アイビー歌声サロン／熱田昭子／熱田
佳大／熱田貴子／熱田親憲／熱田典子
／(株)アプリコート／天野珠代／荒川鉄
也／石飛悦子／幾谷眞規子／上野孝一
／大川奈央未／大谷タカコ／大本和
子／大山美智子／岡本朋子／笠谷正
博／柏木道子／加藤喜代子／加藤美
樹／金井英夫／チャリティーショッ
プ KANIC／枕山加織／栢下壽／川合
千代子／川端勝／川本裕子／JAFS
熊野塾／下司照代／小林久仁子／近藤
朋子／齋藤公代／櫻井紘哉／サクライ
リョウコ／佐々木実／佐野光彦／渋谷
理香／清水利香／四牟田薫／JAFS
第7エリア／JAFS歌声サロン／末
永雅典／菅原直樹／Seiko Purdie／
大門孝至／高岸泰子／田中壽美子／谷
口京子／JAFS旅人／長知子／長
克宣／藤間孝子／富松英二／豊留か
おり／ドリアンプランニング／Nomi
Cook／中尾恵子／中島和子／中嶋啓
子／中須雅治／二階堂美智子／西川久
美子／布川由美子／布川理紗子／根津
千枝子／寢屋川教会／バービカン／J
AFSパラート会／橋本末子／畑中義
雄／畑野峻／ハドソンるり子／早崎鉄

田恵美／深田陽一／福井えり／古本靖
久／古山陽一／堀内弘嗣／堀内眞弓／
本郷仁／本庄紀子／本田伸一／前野芳
子／増田愛子／松橋和子／丸井和子／
三浦寿子／三雲孝／水野礼子／南出道
子／三宅律子／向出純子／森わか子／
森長敬／森本有紹／森山涼子／山口香
世子／山地和家子／吉田京子／吉田聡
子／吉田茂／Ranon Vendreil Gal／
和田秀一／和田義次／渡辺昇

●団体会費

五十鈴ケアセンター／大阪友の会／大
阪西ワイズメンズクラブ／パナソニッ
クデバイス労働組合

●法人賛助会費

イオングループ労働組合連合会／イオ
ンリテールワークスユニオン／(株)エ
ムビ／（公財）大阪府国際交流財団／
(株)カステロ／(株)京進／関西電力労働組
合／京都地区本部／(株)かんぼう／京セ
ラ労働組合本部／清教学園／ソフトキ
ューブ(株)／(株)デュアルエデュケーショ
ン／ナノゾーンジャパンホールディン
グス(株)／(有)西田興産／日東薬品工業(株)
／パナソニックグループ労働組合連合
会／(株)ビケンテクノ／(株)ユニコーン

●里親会費

石本三恵／板原操／一瀬由起子／井上
修二・晶子／大久保宏子／大水光美／
大本和子／岡部雅子／鹿島恵美／柏木
道子／鎌田勝江／川崎隆二／河田篤子
／川端啓之／木村千鶴／草刈良平／倉
野茂樹／久留須眞由美／(株)グローアッ
プ／後藤朝子／齊藤仁／佐伯裕子／佐
藤道代／塩谷真人／清水明子／清水泰
尚／白石敦士／鈴木敏久／高山恵理子
／田中衣子／田中敏弥／谷野麻美／長
知子／坪倉幸弘／戸塚恭子／中谷太一
／中村智子／中山豊子／西優子／西山
美英子・千晶・敦記／細恵理子／濱口
薫翠／浜本耕／林美美子／JAFSハ

ルハロ／久富雅之／檜原敏之／平井静
／洋野町国際交流協会／福田信／本田
伸一／前田恵美子／松本倫代／宮川ヒ
サ／宮城薫／武藤英利矢／森恵美子／
山尾修／山川清／山口美佐子／山中康
／山本敏子／米田典子

●一般寄付

熱田親憲／井上賢／カトリックイエズ
ス会／チャリティーショップ KANIC
／兼松利木雄／川邊比呂子／栗村壽子
／櫻井紘哉／佐藤正隆／實清隆／篠原
勝弘／バ木泰輔／ソフトバンクつなが
る募金／土屋菊男／富松英二／中西産
業(株)／ナوناキピリオネラ／萩尾千
里／濱谷稔夫・小百合／藤原正昭／甫
田典子／眞砂哲志／宮崎富士雄／宮野
谷篤／村上公彦／森本榮三／大和キリ
スト教会支援委員会／山本宏昭／吉田
俊朗／米田明正／脇家崇夫／和田一成

●井戸指定寄付

姥名健仁・加奈子／岡本朋子／松岡直
人／饒平名知幸

●井戸積立

（一財）エノサント／スリランカ・サ
ルボダヤ友の会／JAFS枚方地区会
／JAFSぞうすいの会

●井戸一基建設支援

○インド

谷口ちゑ子／唐招提寺 インドに井戸
を贈る会（二基）

○スリランカ

(株)クレコスにここにクラブ

○ネパール

谷口ちゑ子／日野西光尊／吉田幸子

○バングラデシュ

谷口ちゑ子

●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／小山一雄／村上公彦

●アジア・フレンドシップ夢基金寄付
アイビー歌声サロン／JAFS歌声サ
ロン／菊地彰信／谷口京子／田中俊二
／JAFSパラート会

●アジア・子ども支援寄付
JAFS関東／平瀬美智子／饒平名知
幸

●アジア地域医療支援寄付
八木健次

●インド・HIV子どもと家族支援会費

苗村登美子

●スリランカ・サルボダヤ支援会費
小澤勇／船戸康夫

●スリランカ指定寄付
八木健次

●ネパール・バイオガス寄付
設楽宏幸／JAFS寢屋川地区

●ネパール・ピトゥリ支援会費
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光
和之／小松朱美／前田美津代／前田豊
／宮本博幸／吉川照代

●ネパール小学校建設支援
富田林地区会ラリーグラス／羽室雅夫

●ネパール指定寄付
近藤利則

●ネパール地震被災者支援寄付
元橋亮治

●フィリピン指定寄付
岡本朋子／八木健次

治子／渡辺治彦／渡邊瑠璃子

●物品・日用品・食料品等
今井利子／(株)アグニコンサルティン

(株)アグニコンサルティン 再生パソコンをアジアへ寄贈



職業訓練・カルテ作成・農業リーダー養成に活用

(株)オージス総研が社会貢献活動の一環とし
て取り組んでいる再生パソコンの寄贈式が、7
月10日にJAFS事務局で行われましたⅡ写
真。オージス総研のグループ会社(株)アグニコ
ンサルティンが、企業のインド進出支援事
業をしている関係で、当会のインド、ネパ
ール、フィリピン各国の提携団体に、再生パソ
コン10台を寄贈してくれたのです。

インドの寄贈先では、カルナータカ州バン

ガロール県にある職業訓練校でパソコン研修

に、同州ビジャヤプーラ県にある日印友好学

園コスモニケタンでデータ入力に、マハラシ

ュトラ州ガッチロリ県にある提携団体RUD

YAでは電子カルテ入力に、それぞれ利用さ

れる予定です。

ネパールの寄贈先では、シンドウバルチヨ

ーク郡インドラワティ村の農業組合で、農業

リーダー育成などに使われます。また、フィ

リピンでは、アンティーク州パندان町の障

がい者協会で、障がい者の雇用機会創出のた

めのパソコン職業訓練に使われる予定です。

ご支援、本当にありがとうございました。

(JAFSスタッフ 岡本佳子)

インドの水に関する記事を目にしました。水道について、21都市で水源の地下水に枯渇の恐れありとのこと。2019年にインド南東部の都市チェンナイでは、蛇口をひねっても水が出ず、政府の緊急給水車が出動したとか。JAFSから井戸を贈る農村部でも近年干ばつが多いと聞いていますが、全体としてどんな状況なの？と調べてみました。

今、インドでは6億人が深刻な水不足に直面しているそうです。気候変動によるモンスーン遅延や降水量減少。ヒマラヤ氷河の後退による河川水量減少。都市化による地表舗装で雨水の地下浸透減少。人口増による水使用量増加や、農村の非効率な灌漑水利用により、地下水が過剰採取され水位低下。水インフラ未整備など、複合的な要因があるようです。産業・生活排水が未処理のまま流され、農村ではトイレが普及していないため、水が化学物質や汚水などで汚染されていて使えない状況もあります。都市では水道普及率は80-90%あるものの、配管が古いための漏水や汚水混入、水浄化が不十分で安全でない、貧困層に水道料金が重荷など問題があります。農村の水道普及率は20%程度で、井戸や池に頼る人が大部分です。

これら水の問題に昨年、政府は水専門の省を新設して取組みを強化し、2024年までに全農村への水道普及も目指しています。農村では様々な現地

NGOも井戸作り、住民の水への安全意識向上、灌漑の効率化などで活動しており、JAFSの提携団体もこのようなNGOです。それでも水道水はおろか安全な井戸水さえ飲めない人がまだまだいます。この取り残されている人々にこそ、私たちの支援が必要なのだと改めて思いました。

インド水事情に関し、JAFSで触れるのと違う客観的で大局的な情報に触れ、私がかつてアジアを旅して、途上国の衛生状態や生活環境をどうにかできないのかと心を動かされた原点を、少し思い出しました。皆様にも途上国の現状をお伝えし、何とかしなければと力を貸してくださる方が増えるよう、伝える努力がまだまだ必要ですね。

そうとは言え、水だけでも気が萎えてしまいそうに課題は多く複雑。でも解決可能な所から一つずつやっていくしかない『ハチドリのひとしずく』が頭に浮かびました。南米に伝わるお話で、火事の森に、ハチドリが水を一滴ずつ運んで落とします。逃げる動物が「そんなことして何になる？」と笑っても「私にできることをしているだけ」と答えます。これは井戸を贈る活動にも当てはまります。贈る水は地球規模から見ればほんのひとしずくでしょうが、アジアの様々な地域に、健康でより良く暮らせる人々を少しずつでも確実に増やしています。(JAFSスタッフ 川本 裕子)

環境コラム

アジアへのひとしずく

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円
会費・寄付の振り込み先		
郵便振込 00960-6-10835		
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011		

皆さまが会員となつてサポートして下さることで、安定した活動計画ができます。継続した活動をしていくためにも、ご協力をお願いいたします。

入会ご案内

実は Facebook やってます

今までJAFSのFacebookをご紹介したことがなかったと初めて気づきました。FacebookでJAFSを検索して「いいね！」していただくと、イベント情報などが随時届きます。そして「シェア」や「いいね！」で拡散に協力いただけると、ありがたいです！

編集後記

さ さやかな地異はそのかたみに灰を降らした一立原道造の詩「はじめてのものに」の書き出しは昭和初期の浅間山噴火です。令和のコロナ禍はどのような語り継がれるのでしょうか。

肩 (敏) を骨折し3日間入院した。病室を訪れる看護師は全員マスク着用。大柄な一人を除き記憶に残らない。退院後に読んだ雑誌の特集で、友人の医師が「マスク社会は患者や家族との対話を阻む」と指摘したのに同感。(誓)

本 の号が出る頃には、コロナはもう収束していて、特集記事がタイムリーなものではなくなっているかもしれないと危惧したものだ。それが、今号でも特集を組むことに。終わりはいつ？(和)

コ ロナ禍を避けて巣もりしながら磯崎純一著「龍彦親王航海記 瀝澤龍彦伝」を読みました。慈善活動・環境運動とは全く無縁の人ですが、名利を問わず「役に立たない文弱の徒」を貫いた生き方に打たれました。(黒)

新 型コロナウイルス感染の影響で、困窮する国内留学生への緊急支援は既に40名を超えました。日本に憧れ、日本で働きたい夢を追いつける彼らを少しでも支えたいと強く感じました。(裕)

アジアの水事情を改善～小さな輪から始まった

●仁愛会 (大阪府泉佐野市)



大阪府泉佐野市役所職員有志

1990年に大阪府泉佐野市役所職員有志15名により、社会貢献を目的に発足しました。集めた会費を、当初数年間は他の機関に寄付していましたが、「使途が分かりづらい。形に現れる支援ができないか？」との意見が会員から上がるようになりました。そんな折、アジア協会の活動を知った会員の提案で、アジア

の水事情の悪い地域を支援しようと、井戸建設のための寄付に変えました。以後、建設された井戸や、それを取り囲む現地の人々の写真などの報告が、会員にとってもモチベーションの向上となり、主にカンボジアを中心に、これまで58基の井戸を贈ることができました。昨今は会員の減少により、

毎年1基の井戸を贈ることが困難になっていいますが、仁愛会の灯を消さないよう、可能な限り支援を続けていきたいと思っています。

新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

外国人相談機能と災害時多言語支援の強化

●(公財)大阪府国際交流財団 OFFIX



大阪市中央区本町橋2-5
マイドームおおさか5階
☎ 06-6966-2400
理事長：吉川秀隆

リ「Osaka Safe Travels」の運用を開始しました。皆さんのご支援ご協力を得て、取り組みを進めて行きたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

大阪の国際化と府民の国際交流促進のため1989年に設立。在住・来訪外国人が増加する中で、現在は地域の多文化共生に向けて「外国人相談機能の強化」と「災害時多言語支援の強化」を重点に取り組んでいます。「外国人相談」については、入管法改正による昨年4月の新たな在留資格の創設を

受けて機能を強化し、11言語での対応とともに、弁護士・行政書士など専門家による相談や情報提供もしています。「災害時多言語支援」では、地震や台風など災害発生時に大阪府と共同で「大阪府災害時多言語支援センター」を立ち上げます。今年2月からは災害時に多言語で様々な情報が得られるウェブとアプリ



▲ボーリングの元祖と言われる、タイの伝統的な遊び「ルークサバー」。マメ科植物（ルークサバー）の堅い種を一行に並べ、転がした種で倒した数を競う。種は海流に乗り日本に漂着することもある＝1月25日、タイ・ナン県

◀表紙の写真 コロナ禍前、学校に新しくできた井戸を囲む子たち。今はコロナで休校となり、親の収入も途絶えている。この笑顔が戻りますように＝2月、バングラデシュ、ポダハルビスBDP小学校。12・13頁に関連記事



アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます
郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

募金にご協力をお願いします



HPもご覧ください



Accountability Self-Check 2013

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2020年10月 143号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、岩崎準一、大本和子、柿島 裕、
金井英夫、川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社